

平成31年度(令和元年度) 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市リサイクルプラザ
所在地	下関市古屋町一丁目18番1号
指定管理者	名称 みさかの森自然学校共同事業体
	代表者 代表団体 太平ビルサービス株式会社下関営業所 所長 宮 弘之
	住所 下関市細江町二丁目2番1号
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を毎月提出される業務実績報告書及び年間事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。 その後、次業のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課(問合せ先)	環境部環境施設課
	TEL : 083 - 252 - 1943
	E-mail : kksisetu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		合計	
	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)
目標値	62,500	300	65,000	330	134,000	340	261,500	970
実績値	133,438	318	119,496	305	118,687	261	371,621	884
差	70,938	18	54,496	△ 25	△ 15,313	△ 79	110,121	△ 86

令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館（3月5日から）と電気設備工事に伴い2階のリサイクル工房等が使用できなかった期間（12月～2月中旬）があり、単純な経年比較はできないため月平均（利用者数（講座開催数）÷開館月数）で比較すると、利用者数は前年度を上回り、講座開催数は前年度並みとなっています。これは、利用者数については、各イベントの参加者数が前年度より増加していること、講座開催数については、リサイクル工房が使用できない期間の講座を別の時期などに振り替え、休館による影響を抑えたことが大きな要因です。

令和元年度から新たな5か年の指定期間が始まりましたが、新規講座の開設や集客力のあるイベントの開催など目標達成に向けた積極的な取り組みがみられます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設の設置目的は、一般廃棄物の分別収集に供するとともに、その減量、再資源化及び再生利用を促進し、並びにリサイクルの情報及び体験の場を市民に提供すること等により市民の意識の啓発を図り、もって市民の自主的な活動の支援と循環型社会の形成に寄与することです。

管理運営業務の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。また、施設の維持管理、事業等の実施についても、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で今までにない対応が必要となりましたが、適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例規則を遵守し、積極的に設置目的に沿った環境教育講座や各種イベントを開催しています。今後も指定管理者の特色を活かしながら、さらなる企画運営の充実を図ることを期待しています。

収支について、収入は予算を上回り、施設使用料については、基準額を超過しており超過分の2分の1を市へ納付しています。支出においては経営努力による経費削減を行い、収支は適正な範囲内となっており評価できます。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和2年度以降も引き続き指定管理者として、本施設の設置目的を達成するため、業務のさらなる向上充実を図り、利用者が安心して利用できるような環境づくりを求めます。特に、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上での施設運営を求めます。

ハード面では、設備等の老朽化による修繕等はあるものの、概ね良好に管理されていると考えます。今後も異常が認められる場合に、速やかな報告及び修繕等を求めます。ソフト面では、環境教育等事業及び自主事業について今後も設置目的に沿った、新たな講座の開設等によって更なる利用者の増加を期待します。

利用者からの大きなクレームもないことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を維持することを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

リサイクルに関する市民の意識の啓発を図るとともに、市民の自主的な活動を支援するという施設の設置目的に沿って適切に運営されていました。施設運営や利用者への対応については、市民が公平・平等に利用できるよう努力されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

基本協定に基づき、環境教育等事業や自主事業などが適切に実施されていました。夏休み等の長期休暇向けに新たな講座を開設するなど新規事業への取り組みがみられました。施設使用の許可等については、大きな苦情・問題はない状況であり、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館の際も還付事務や電話対応などに適切に対応していました。

また、イベント開催時に利用者アンケートを実施するなど次回への改善に向けた努力が見られます。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

業務遂行に必要な人員配置や管理体制の維持に努め、適切に管理されていると考えます。また、環境関連の研修等へ積極的に参加するとともに、月2回行われるミーティングにおいて問題点を話し合うなど職員の資質向上に努めていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について適正に処理されています。領収書や経理関係調書の整理保管、施設の利用に関する許可申請書や利用料金減免申請書等について、適正に整理保管していることを確認しました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

入館者の安全を確保するための施設の保守点検が適切に行われ、修繕等も迅速に適切に実施されていました。経年劣化による施設の不具合等も発生してきていますが、適宜市へ文書にて報告が行われています。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた施設運営が行われていました。

社会性(環境等への配慮)

事業の一環としてリサイクルに取り組み、実践・指導を行うのはもちろん、リサイクル工房などで使用するせっけんを廃油再生石鹼にするなど、施設全体でリサイクル品の利用が多くみられます。冷暖房については、必要な場所にだけ使用するとともに、1階にはゴーヤのグリーンカーテンを設置するなど使用の無駄をなくす取り組みを行っています。事務所内でも裏紙使用や無駄な印刷を防ぐコピー機を設置するなど、環境に配慮した取り組みを積極的に行っています。

事業収支

経済性

事業収支については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館等で利用料金や自主事業収入が見込みを下回った月があったものの、経費を抑えるなどの経営努力により収支をプラスとしており、おおむね適正に執行されていると考えます。

また、収支計画・収支報告では指定管理業務費用と自主事業費用の区分が明瞭となり改善されています。

団体の経営状態

経営の健全性

共同体を構成する3つの団体から提出された決算報告書等を分析した結果、一部団体の財務状況においてその原因の把握・改善が必要と考えられる項目が認められるものの、業務を継続することについて、現時点では支障がない財務状況と判断しました。

令和2年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市リサイクルプラザ
所在地	下関市古屋町一丁目18番1号
指定管理者	みさかの森自然学校共同事業体
	代表団体 太平ビルサービス株式会社下関営業所 所長 宮 弘之
	下関市細江町二丁目2番1号
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を毎月提出される業務実績報告書及び年間事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、次業のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	環境部環境施設課
	TEL : 083 - 252 - 1943
	E-mail : kksisetu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		合計	
	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)
目標値	65,000	330	134,000	340	135,000	340	334,000	1,010
実績値	119,496	305	118,687	261	40,992	258	279,175	824
差	54,496	△ 25	△ 15,313	△ 79	△ 94,008	△ 82	△ 54,825	△ 186

令和2年度の延べ利用者数は目標の30%、前年比35%となりました。この主な要因は、休館等（新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館（4/4～5/31）と電気・空調設備工事のため1・3階の展示ホールや研修室等の使用中止（11/16～2/8））の他に、新型コロナウイルス感染症対策（以下「コロナ対策」）のためフリーマーケットの開催がなかったこと、イベントの中止や規模を縮小しての実施であったこと、貸館の利用者がコロナ対策のための使用人数制限により減少したこと、小学校の社会見学がコロナ対策で減少したことによります。

環境教育講座開催数については、目標の76%となりました。開館した月での平均（講座開催数258回÷開館月数10か月）をみると、おおむね26回/月であり、目標の28回/月に近い開催数となっています。これは、休館期間の講座を別の月に振り替え、受講機会の減少を最小限に抑えたことによります。

コロナ禍においても、環境啓発を続けていくために、コロナ対策を徹底しながら、工夫して定例講座を開催し、新規講座も開設、これまでのイベントを見直し、少人数・予約制の講座形式イベントへ企画変更するなどして、目標達成に向けた積極的な取組みがみられました。

令和3年度もコロナ対策を実施しながら、工夫して積極的に環境啓発を推進することを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設の設置目的は、リサイクルの情報及び体験の場を市民に提供すること等により市民の意識の啓発を図り、もって市民の自主的な活動の支援と循環型社会の形成に寄与することです。

管理運営業務の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。また、施設の維持管理、事業等の実施についても、コロナ対策を実施しながら適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例規則を遵守し、積極的に設置目的に沿った環境教育講座等を開催しています。今後も指定管理者の特色を活かしながら、さらなる企画運営の充実を図ることを期待しています。

収支については、事業継続及びコロナ対策のため、市から支援金を交付したこと、及び指定管理者による様々な経営努力の結果、収支は適正な範囲内となっており評価できます。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和3年度以降も引き続き指定管理者として、本施設の設置目的を達成するため、業務のさらなる向上充実を図り、利用者が安心して利用できるような環境づくりを求めます。特に、引き続きコロナ対策を講じた上での施設運営を求めます。

ハード面では、設備等の老朽化による修繕等はあるものの、おおむね良好に管理されていると考えます。今後も異常が認められる場合には、速やかな報告及び修繕等を求めます。ソフト面では、環境教育等事業及び自主事業について今後も設置目的に沿った、新たな講座の開設等によって更なる環境啓発活動を期待します。

利用者からの大きなクレームもほとんどないことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を維持することを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

施設の設置目的に沿って適切に運営されていました。施設運営や利用者への対応については、市民が公平・平等に利用できるよう努力されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

環境教育等事業や自主事業などが適切に実施されていました。新たな講座を開設するなど新規事業への取り組みがみられました。施設使用の許可等については、大きな苦情・問題はない状況であり、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館の際も電話対応などに適切に対応していました。
また、利用者アンケートを実施するなど次回への改善に向けた努力が見られます。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

業務遂行に必要な人員配置や管理体制の維持に努め、適切に管理されていると考えます。また、環境関連の研修等へ積極的に参加するとともに、月2回行われるミーティングにおいて問題点を話し合うなど職員の資質向上に努めていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について適正に処理されています。領収書や経理関係調書の整理保管、施設の利用に関する許可申請書や利用料金減免申請書等について、適正に整理保管していることを確認しました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

入館者の安全を確保するための施設の保守点検が適切に行われ、修繕等も迅速に適切に実施されました。経年劣化による施設の不具合等も発生していますが、適宜市へ文書にて報告が行われています。
また、コロナ対策を講じた施設運営が行われていました。

社会性(環境等への配慮)

事業の一環としてリサイクルに取組み、実践・指導を行うのはもちろん、リサイクル工房などで使用するせっけんを廃油再生石鹸にするなど、施設全体でリサイクル品の利用が多くみられます。冷暖房については、必要な場所にだけ使用するとともに、1階にはゴーヤのグリーンカーテンを設置するなど使用の無駄をなくす取組みを行っています。事務所内でも裏紙使用や無駄な印刷を防ぐコピー機を設置するなど、環境に配慮した取組みを積極的に行っています。

事業収支

経済性

事業収支については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館等で利用料金や自主事業収入が計画を下回りましたが、適切に事業継続支援金及び新生活様式支援金の交付を受けたことや、経費を抑えるなどの経営努力により収支のマイナスを最小限とし、おおむね適正に執行されていました。

団体の経営状態

経営の健全性

共同体を構成する3つの団体から提出された決算報告書等を分析した結果、一部団体の財務状況においてその原因の把握・改善が必要と考えられる項目が認められるものの、業務を継続することについて、現時点では支障がない財務状況と判断しました。

令和3年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市リサイクルプラザ
所在地	下関市古屋町一丁目18番1号
指定管理者	名称 みさかの森自然学校共同事業体
	代表者 代表団体 太平ビルサービス株式会社下関営業所 所長 森川 純二
	住所 下関市細江町二丁目2番1号
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を毎月提出される業務実績報告書及び年間事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、次業のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	環境部環境施設課
	TEL : 083 - 252 - 1943
	E-mail : kksisetu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		合計	
	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)
目標値	65,000	330	134,000	340	135,000	340	77,000	320	411,000	1,330
実績値	119,496	305	118,687	261	40,992	258	59,710	263	338,885	1,087
差	54,496	△ 25	△ 15,313	△ 79	△ 94,008	△ 82	△ 17,290	△ 57	△ 72,115	△ 243

令和3年度の延べ利用者数は目標の78%、前年度比146%となりました。この主な要因は、新型コロナウイルス感染症拡大防止（以下「コロナ対策」）に伴う2回の休館（①5/21～6/20②8/27～9/26）とフリーマーケットの開催中止（年8回予定）の他に、イベントの中止や規模を縮小しての実施であったこと、貸館の利用者がコロナ対策のための使用人数制限により減少したこと、小学校の社会見学がコロナ対策で減少したことによります。

環境教育講座開催数については、目標の82%となりました。開館した月での平均（講座開催数263回÷開館月数10か月）をみると、26.3回/月であり、目標の26.6回/月（目標講座開催数320回÷目標開館月数12か月）に近い開催数となっています。これは、休館期間の講座を別の月に振り替え、受講機会の減少を最小限に抑えたことによります。

コロナ禍においても、環境啓発を続けていくために、コロナ対策を徹底しながら、工夫して定例講座を開催し、新規講座の開設、これまでのイベントを見直し、少人数・予約制の講座形式イベントへ企画変更するなどして、目標達成に向けた積極的な取り組みがみられました。

令和4年度もコロナ対策を実施しながら、工夫して積極的に環境啓発を推進することを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設の設置目的は、リサイクルの情報及び体験の場を市民に提供すること等により市民の意識の啓発を図り、もって市民の自主的な活動の支援と循環型社会の形成に寄与することです。

管理運営業務の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。また、施設の維持管理、事業等の実施についても、コロナ対策を実施しながら適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例規則を遵守し、積極的に設置目的に沿った環境教育講座等を開催しています。今後も指定管理者の特色を活かしながら、さらなる企画運営の充実を図ることを期待しています。収支については、指定管理者による様々な経営努力の結果、収支は適正な範囲内となっており評価できます。厳しい社会情勢の中、サービス向上に努めつつ、利用者数の維持増加を図っており引き続き、さらなる努力や工夫が継続されることを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和4年度以降も、コロナ対策に努め、本施設の設置目的を達成するため、業務のさらなる向上充実を図り、利用者が安心して利用できる環境づくりを求めます。ソフト面では、環境教育等事業及び自主事業の企画・実施により年間を通じて利用者の増加に努めるよう求めます。ハード面では、施設自体の老朽化による修繕の件数は増加してくるものと見込まれますが、市と情報共有を行いながら、速やかな報告及び修繕等に努め、良好な水準を維持することを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

施設の設置目的に沿った運営を行うとともに、利用者への対応も適切に行っています。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

環境教育事業や自主事業などが適切に実施されており、季節に応じた新たな講座を開設するなど新規事業への取組みがみられました。コロナ対策に伴う休館期間の講座を別の月に振り替えるなど受講機会の減少を最小限に抑えています。また、利用者アンケートの結果から、利用者の満足度は高く、良好でした。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

業務遂行に必要な人員配置や管理体制の維持に努め、関係条例、規則などを遵守して適切に管理するとともに、職員の資質の向上を目的に研修を実施するなど、施設運営の向上に努めていました。また、新型コロナウイルス感染症の影響による休館対応についても、迅速に施設予約者へ周知を行うなど、適正な体制のもとで施設運営が図られています。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入や、施設管理費などの支出について適正に処理しており、金銭出納帳や経理関係資料も整理できています。また、施設の利用に関する許可申請書や利用料金減免申請書などについても適切に処理していることを確認しました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検、修繕なども適切に実施しており、施設の不具合などは適宜市へ報告が行われています。コロナ対策についても、消毒液や自動検温器の設置、職員や利用者への感染予防周知・啓発など、適切な対応がなされている点は評価できます。

社会性(環境等への配慮)

事業の一環としてリサイクルに取組み、実践・指導を行うのはもちろん、リサイクル工房などで使用するせっけんを廃油再生石鹸にするなど、施設全体でリサイクル品の利用が多く見られます。冷暖房については、必要な場所にだけ使用するとともに、1階にはゴーヤのグリーンカーテンを設置するなど省エネ及び環境に配慮した取組みを積極的に行っています。

事業収支

経済性

収入については、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う休館などで利用料金や自主事業収入が計画を下回りましたが、前年度比で増加しており、経費を抑えるなどの経営努力により収支をプラスとし、おおむね適正に執行しています。

団体の経営状態

経営の健全性

共同体を構成する3つの団体から提出された決算報告書などを分析した結果、一部団体の財務状況においてその原因の把握・改善が必要と考えられる項目が認められるものの、業務を継続することについて、現時点では支障がない財務状況と判断しました。

令和4年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市リサイクルプラザ
所在地	下関市古屋町一丁目18番1号
指定管理者	名称 みさかの森自然学校共同事業体
	代表者 代表団体 太平ビルサービス株式会社下関営業所 所長 森川 純二
	住所 下関市細江町二丁目2番1号
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を毎月提出される業務実績報告書及び年間事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。 その後、次業のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	環境部環境施設課
	TEL : 083 - 252 - 1943
	E-mail : kksisetu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		合計	
	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)	利用者数(人)	講座開催数(回)
目標値	134,000	340	135,000	340	77,000	320	60,000	330	406,000	1,330
実績値	118,687	261	40,992	258	59,710	263	68,341	335	287,730	1,117
差	△ 15,313	△ 79	△ 94,008	△ 82	△ 17,290	△ 57	8,341	5	△ 118,270	△ 213

指定管理者制度導入4年度目に当たる令和4年度の利用者数については、目標値比113.9%、前年度比114.5%となりました。この主な要因は、コロナ禍により利用を控えていた方の利用が再開し、また、イベントや定例講座等の受講者が増えたことによると考えられます。ただし、コロナ禍の影響によりフリーマーケットが開催できず、規模を縮小してのイベントの実施であったこと、貸館の利用者が使用人数制限により減少したこと、小学校の社会見学が減少したことなどのマイナス要因がありました。

環境教育講座開催数については、目標値比101.5%、前年度比127.4%となりました。コロナ禍においても環境啓発を続けるため、コロナ対策を徹底しながら工夫して定例講座を開催し、新規講座やイベントの見直しもを行い、少人数・予約制の講座形式イベントの数を増やすなど、目標達成に向けた積極的な取り組みがみられました。

令和5年度については、利用者を増やしていくため、業務改善を積極的に推進し、一層の利用者の獲得に努めることを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

本施設の設置目的は、リサイクルの情報及び体験の場を市民に提供すること等により市民の意識の啓発を図り、もって市民の自主的な活動の支援と循環型社会の形成に寄与することです。

管理運営業務の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。昨今のコロナ禍にも関わらず、目標値を達成しており、また、施設の維持管理、事業等の実施についても、コロナ対策を実施しながら適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例規則を遵守し、工夫して積極的に設置目的に沿った環境教育講座等を開催しています。今後も指定管理者の特色を活かしながら、さらなる企画運営の充実を図ることを期待しています。

収支については、指定管理者による様々な経営努力の結果、収支は適正な範囲でした。厳しい社会情勢の中、サービス向上に努めつつ、利用者数の維持増加を図っており、引き続き、さらなる努力や工夫が継続されることを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和5年度についても、本施設の設置目的を達成するため、業務のさらなる向上充実を図り、利用者が安心して利用できる環境づくりを求めます。ソフト面では、環境教育等事業及び自主事業の企画・実施により年間を通じて利用者の増加に努めるよう求めます。ハード面では、施設自体の老朽化による修繕の件数は増加すると見込まれますが、市と情報共有を行いながら、速やかな報告及び修繕等に努め、良好な水準を維持することを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

施設の安全・維持管理等、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営されていました。施設運営や利用者への対応については、地域住民が公平・平等に利用できるよう努力されていました。施設の運用については、厳しい社会情勢の中、目標値を達成できました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

環境教育事業や自主事業などが適切に実施されており、定例講座の開催の工夫、新規講座やイベントの見直しを行い、少人数・予約制の講座形式イベントの数を増やすなどコロナ禍に対応した利用促進の取組みがみられました。また、利用者アンケートの結果から、利用者の満足度は高く、良好でした。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

業務遂行に必要な人員配置や管理体制の維持に努め、関係条例、規則などを遵守して適切に管理するとともに、職員の資質の向上を目的に研修を実施するなど、施設運営の向上に努めていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入や、施設管理費などの支出について適正に処理しており、金銭出納帳や経理関係資料も整理できています。また、施設の利用に関する施設利用の許可等について、使用申請受付、使用許可についてチェックシートを用いて受付等処理業務が適正処理されているか確認するよう変更するなど、事務の改善が行われました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検、修繕なども適切に実施しており、施設の不具合などは適宜市へ報告が行われています。コロナ対策についても、消毒液や自動検温器の設置、職員や利用者への感染予防周知・啓発など、適切な対応がなされている点は評価できます。

社会性(環境等への配慮)

事業の一環としてリサイクルに取組み、実践・指導を行うのはもちろん、リサイクル工房などで使用するせっけんを廃油再生石鹼にするなど、施設全体でリサイクル品の利用が多く見られます。冷暖房については、必要な場所にだけ使用するとともに、1階にはゴーヤのグリーンカーテンを設置するなど省エネ及び環境に配慮した取組みを積極的に行っています。

事業収支

経済性

支出について、昨年度比で増加しているものの、当初計画の範囲内において適正に執行されていました。収入については、コロナ禍の影響により利用料金や自主事業収入が計画を下回りましたが、経費を抑えるなどの経営努力により収支をプラスとしており、安定的かつ継続的に本施設を管理運営できる範囲内であると認められます。

団体の経営状態

経営の健全性

共同体を構成する3つの団体から提出された決算報告書などを分析した結果、一部団体の財務状況においてその原因の把握・改善が必要と考えられる項目が認められるものの、業務を継続することについて、現時点では支障がない財務状況と判断しました。